

関係各位

京都府病虫害防除所長
(公 印 省 略)

病虫害発生予察情報について

下記のとおり発表しましたので送付します。

◇
発生予察注意報第 2 号

作物名 水 稻
病虫害名 斑点米カメムシ類

- 1 発生地域 府内全域
- 2 加害時期 出穂後収穫期まで
- 3 発生量 平年比やや多い
- 4 防除時期 穂揃期及び傾穂期
- 5 注意報発令の根拠

- (1) 6月中旬に行った畦畔雑草すくい取り調査の結果、府内全域の確認地点率は 58.6%、平均虫数は5.0頭であり、平年比やや多く、特に山城地域での発生は平年比多かった。主要な発生種は、アカヒゲホソミドリカスミカメ（図1）、アカスジカスミカメ（図2）、ホソハリカメムシ、トゲシラホシカメムシであった。特にアカヒゲホソミドリカスミカメが多く捕獲された。今後、これらのカメムシ類が出穂後水田に侵入することが懸念される。なお、府内各地の畦畔雑草における発生状況は表1のとおりである。
- (2) 6月中旬に行った水田内のすくい取り調査の結果、府内全域の確認地点率は6.9%、平均虫数は0.1頭であり、平年比やや多く、特に山城地域の発生は平年比多かった。主要な発生種は、アカヒゲホソミドリカスミカメであった。なお、府内各地の水田内における発生状況は表2のとおりである。
- (3) アカヒゲホソミドリカスミカメの予察灯への誘殺数（6月第1～5半旬までの合計値）は、京田辺市で61.0頭（平年：2.8頭）と平年比多く、亀岡市で26.0頭（平年：17.2頭）、京丹後市で28.0頭（平年：50.3頭）と平年並であった。アカスジカスミカメの予察灯への誘殺数（同上）は、京田辺市で0.0頭（平年：0.3頭）、亀岡市で12.0頭（平年：15.6頭）、京丹後市で32.0頭（平年：32.4頭）と平年並であった。



図1 アカヒゲホソミドリカスミカメ



図2 アカスジカスミカメ

年	府内全域		山城地域		南丹地域		中丹地域		丹後地域	
	確認 地点率(%)	平均 虫数(頭)								
26年	58.6	5.0	80.0	4.0	44.4	2.3	50.0	11.2	66.7	4.8
平年	44.6	3.8	46.4	10.3	38.6	1.3	40.7	2.8	51.7	2.4
25年	83.3	18.3	83.3	78.2	88.9	3.0	66.7	4.7	88.9	2.9
24年	46.7	2.5	66.7	4.8	22.2	0.3	50.0	2.7	55.6	3.0
23年	40.0	3.8	33.3	1.5	44.4	2.0	33.3	4.7	44.4	6.4
22年	40.0	1.6	33.3	1.5	33.3	1.0	50.0	4.0	44.4	0.6

年	府内全域		山城地域		南丹地域		中丹地域		丹後地域	
	確認 地点率(%)	平均 虫数(頭)								
26年	6.9	0.1	20.0	0.2	11.1	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0
平年	5.5	0.13	3.1	0.1	4.2	0.06	8.1	0.2	6.7	0.14
25年	26.7	0.8	16.7	0.5	11.1	0.3	16.7	0.7	55.6	1.3
24年	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
23年	6.7	0.1	0.0	0.0	11.1	0.1	0.0	0.0	11.1	0.1
22年	3.3	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	0.7	0.0	0.0

6 防除上の留意事項

(1) 耕種的防除

斑点米カメムシ類はイネ科雑草の種子を餌にする。したがって、水田周辺のカメムシ類の生息密度を下げるためには、**畦畔の草刈りを行うことが有効である**。草刈りは、イネが**出穂する2～3週間前と出穂直前の2回行うと効果的**である。作業の都合上、**1回で済ませる場合は、必ず出穂の10日前までに草刈り等を済ませる**。出穂期に近づきすぎたから行くと、カメムシ類を水田に追い込み、かえって逆効果となる。

水田内のイネ科雑草は、カメムシ類の水田への侵入を助長するので出穂前に除草する。

(2) 農薬による防除

農薬の散布に当たっては散布適期を確認し、周辺作物に飛散しないよう十分注意する。

農薬の選択に当たっては普及センター、農協等と相談し、使用基準を遵守して適正に使用する。

カメムシ類の密度が高い水田では、薬剤による防除を穂揃期と傾穂期の2回行うことが望ましい。

なお、最新の農薬情報は農林水産省ホームページの「農薬コーナー」の「農薬登録情報検索システム」を参照のこと (<http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/index.html>)。

(3) ミナミアオカメムシの発生に注意

平成22年に、府内で初めてミナミアオカメムシ(図3及び4)の発生を確認した。

平成25年までに山城地域でのみ本種の発生を認めている。本種は、他の斑点米カメムシ類に比べて体が大きく吸汁量が多いため、少数でも被害が大きくなるので発生に注意する。



図3 ミナミアオカメムシ成虫



図4 ミナミアオカメムシ幼虫